

2月23日(月) Singapore General Hospital

報告：鈴木文歌(Group A)

7:00 ホテルロビー集合

Singapore General Hospital へ

8:00 Health Promotion Center 到着

Welcome のスライド上映 (シンガポールの医療システムなどの説明)

8:30 Health Promotion Center の外来見学

外来に来た患者さんは、血圧や脈拍などの **vital sign** を先に図って待ちます。その結果は医師のところ先にデータでとんでいきます。検査のスピッツなどは日本と同じでした。様々な診察室を見学しました。

●Family medicine のブース

たとえば糖尿病の人で、心疾患、眼疾患、足の壊死などがあっても、**family medicine** の医師はすべて診ることができるので、患者はその都度、眼科、整形外科に行かなくともよいと知りました。

9:30 Postgraduate Medical Institute (PGMI) 到着

Welcome and Introduction のスライド上映(シンガポールの医療システムなど)

10:00 Singapore General Hospital 見学

●Accident and Emergency center(救急外来)

警察の人が常在しているそうです。

最初に感染や有毒なものがないか判定するスクリーニングの部屋があります。私たちが見学している間にも救急車が2台到着しました。救急車内はほぼ日本と同じでした。救急外来を歩いて受診したらまず **triage** を受けるようです。



【救急車内】

Pain Management Center : 針治療やペインクリニックの専門外来

Urology Center : 外から覗いただけでしたが、大きなスペースでした。

10:15 Group A、B に分かれて見学

Group A : Neonatal Ward(小児科病棟)の見学

Group B : Family Medicine の病棟見学

患者が加入している保険によって、6人部屋、8人部屋に分かれていました。

10:30 Audiometry の部屋や一般検査室がありました。

人工内耳の手術もかなり行われていて、その説明を受けました。人工内耳を埋め込んだ後の聴力改善には患者とその家族の教育が大切であることを知りました。

● Hearing education Arcade

人工内耳の手術前と手術後の音の聴こえ方の違いが、一般の人に分かりやすく音で分かるようになっている機械がありました。手術を考えている患者とその家族にとってとてもよいシステムだと思いました。

11:15 Postgraduate Medical Institute (PGMI) に到着

内科、小児科、精神科、リハビリテーション、耳鼻科、外科、Family Medecine を専攻しているレジデントとカンファランス。

まずは私たちから英語で自己紹介。その後彼らに自己紹介をしていただきました。私たちが用意したプレゼンテーションを発表。

①福島医大の研修と日本の医療システム

(知識・吉成・鈴木)

②局所麻酔での喉頭鏡下手術 (大槻)

その後質疑応答。シンガポールの医療システムはお金を払えば直接 specialist にかかるが、GP を最初に受診し、必要があれば specialist に紹介されるのが一般的。日本で専門医をとるまでの経過や、手術を任されるようになるためにはどのような経過があるかなどの質問がでました。



【大槻先生のプレゼンテーション】

12:00 Lunch を食べながら向こうの研修医の方々とお話をし、とても楽しい時間でした。

13:00 終了・・・の予定が楽しさのあまり延長・・・

19:00 夕食 夕食をとりながら、亀井先生にシンガポールの医療システムについて教えていただきました。

● シンガポールの医師

シンガポールでは GP (general practitioner) と呼ばれる一般医と Specialist と呼ばれる一般医に分かれます。通常まず最寄りの一般医の診察を受け、そこで解決しないときに専門医を紹介してもらう。直接専門医を受診することもできる。シンガポールで認可を受けている日本人医師は全員一般医としての登録である。

● シンガポールの医療制度

シンガポールには日本のような保健医療制度はない。政府は目安となるガイドラインを提供するだけで、病院が独自に料金を決める自由診療の形をとっているため、かかる病院によって料金はまちまちである。



【夕食会の様子】

シンガポール人や永住者はメディセーブとメディシールドという政府の制度に加入できる。メディセーブは年金の一部でいざというときこれで医療費を払うことができる。使わなければそのまま年金として積み立てされる。一方メディシールドは任意加入で保険料を払うことで入院時にその費用が一部保険でまかなわれる。日本の健康保険と似ているが、任意加入であること、風邪で病院にかかるような外来治療には適応されないこと、保障額に上限があることなどからどちらかというと傷害保険に近い。これだけでは医療保障は十分でないため多くのシンガポール人は任意の医療保険に加入する。しかし、通常の外来通院をカバーする保険はなく、シンガポール人は通常の外来医療費は実費負担となっている。



【Family medicine】



【研修医同士でのLunch】